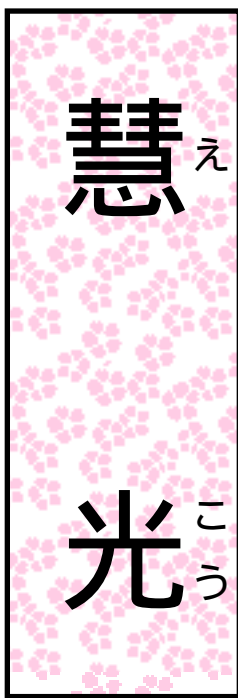




古い写真でごめんなさい 南天の実



金光寺寺報  
第164号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

おが 拝むとは きづ 拝まれて居たことに 気づき醒めること

2月の法語には、高光大船師(1879~1951)のおことばをいただいています。煩惱に支配されて欲望の中にある「自己」を厳しく見つめられながら、徹底した求道の生活を生きられた真の求道者です。  
阿弥陀如来の本願に出会い、阿弥陀如来のお慈悲につつまれて、お念仏を申しながら合掌礼拝させていただく、それが信心決定の姿といえましょう。阿弥陀如来のお慈悲に、報恩のころから拝むことになるわけですが、実は大なるお慈悲のはたらきは、この「私」が報恩感謝の心を抱く前から、拝む遙か前から、本願のおはたらきが届いていた、阿弥陀如来がみ手を差し伸べてくださっていた、と気付かされて、はっとさせられます。  
大船先生のおことばはまさに、この「私の気付き」の遙か前から阿弥陀如来から手を差し伸

べられていた、ご本願がはたらいてくださっていた、お導きいただいていた、というはっとさせられる思いを、「拝まれて居た事に気づき...」と言われていきます。  
こちらの「はからい」、こちら側の詮索など遙かに超えて、真実の智慧と慈悲のはたらきがすではたらきづめであった、という驚きと慶喜のおこころをいただくのです。  
また、大船先生のおことばを味わうにつけて、東井義雄先生(1912~1991)のおことば「拝まない者もおがまれている 拝まないときもおがまれている」(昨年8月号掲載)をいただいて、仏力のおはたらきの中に生かされていることをより一層深く受け止め味あわせていただくところです。  
(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 2月 18日(水) 午後 27日(金) 終日
3月 11日(水) 終日 21日(土) 終日 27日(金) 終日
4月 4日(土) 終日 25日(土) 午後

1月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2015年 1月16日寂 満87歳 笠部 渡邊 キヌ子 様
2015年 1月22日寂 満91歳 本屋敷 橋本 ハナエ 様
2015年 1月31日寂 満94歳 東光寺 佐藤 チズ 様

ホームページ開いています。 URL http://konkhoji.jp/ 2月9日現在 アクセス数 75,342人

昨年二月は娘の大学受験でせわしない日々を送っていました。今年も受験の季節を迎え、受験生本人はもとより家族の皆さんも落ち着かない毎日ではないでしょうか。高校受験、大学受験の皆さん、体調に留意されて、本番しっかり頑張ってくださいね。応援しています。体調といえ、昨年四月ごろ後頭部の円形脱毛症を発見しました。ストレスでできると聞きますが、やはり娘の受験だったと思いません。滑り止めに受けた私立大学に落ちたことと本命の大学に受かるかどうか心が労になったのでしょう。最終的には無事に本命に受かり、円形脱毛症は治りました。一月八日、法事が終わり帰宅し、NHKテレビ取材班の取材を受けました。番組名は「いつちやが金ゴルド」。一月二十三日に放送があり、番組が終わるとすぐに多くの方からメールや電話で「見たよ」とご連絡をいただきました。ありがとうございます。恥ずかしながら出てしまいました。私が私の本音です。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

所 詮

「所詮、われわれにはどうにもならないことだよ」と、「所詮」は、要するに、結局、どうせなどという意味の副詞として知られています。仏典にはよく「能」と「所」とが対になって登場します。

「能」は能動的に、ある動作の主体となるもの、「所」は受動的に、その動作の客体となるものを示しています。たとえば、見る眼を「能見」、見られる対象を「所見」、行ずるものは「能行」、行ぜられる事柄は「所行」、教化する者は「能化」、教化される者は「所化」といった具合です。この「所詮」も同じように「能詮」に対する言葉です。詮は「つぶさに説く」という意味です。つまり、言葉や文字であるものに

対し、所詮は、その言葉や文字によって表わされた内容をいいます。所詮は、経文に表わされた義理という意味から、究極、最後の目的という意味となり、現在のよに用いられるようになりましました。まわりくどい説明になりましたが、所詮、仏の教えのことです。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

# お供えもの

今日(八日)は朝から雪。立春が過ぎ、春の訪れを感じる事ができればいいのですが、春めくのはもう少し先のことでしょうか？

とは言っても昨年の同時期と比べると今年は降雪の回数も量も少なく、昨年よりは少しぶん暖かく感じます。

寒いのが

今日はいいのう

二月かな

娘の高校三年の時のクラス副担任の先生が卒業式の時に披露された俳句です。どなたの作品かは忘れましたが、こんな気持ちで一日々過ごすことができればいいなと思うことです。

ところで、今月四日の十七

回忌仏参(寺参り)の際、お

つとめが終わりお茶を飲みながら仏事にまつわる話になりました。お寺に住む者にとつては当たり前のことなのですが、法事でお供さん(お供えのモチのこと)でござんと読みます(を)をいただいで帰るとお仏壇にお供えします。しかし、話をしたその方はお供えすることが今までなかったそのなのです。

ということ、知っているように知らないお供えものに関する事について説明したいと思えます。

法事の際のお供さんや引き物について

仏事のお供え物で仏さまが一番喜ばれるものはモチです。だから、仏事ではモチをお供

えするし、仏事の参詣者にモチを封筒に入れて配ります。モチを配るのは仏事のおすそわけです。参詣者のお家のお仏壇にお供えするためにお供さんを差し上げるのです。

ですから、差し上げる方は「ご自宅のお仏壇にお供えください」とお渡しします。いただいた方は帰宅したら自宅のお仏壇にお供えし、その後、おさがりとしていただきます。引きものも同様です。

法事の際のお布施について

仏事では僧侶はお経をつとめ、お取次ぎをして法施(ほうせ・法の施し)をします。それに対して仏事主催者は財施(ざいせ・法施に対するもの)として財物を施すことをします。

その際、手次寺まで財施としてのお布施を届けるのが本来のすがたです。現在は法要が終わった時にお布施を僧侶に渡すことが多いのですが、

その時には「おことづけして失礼ですが阿弥陀さまにお供えください」と一言添えてお布施を渡します。

仏参・寺参りの際のお供えもの

年回忌や七日参りでお寺に参った時、最近はお仏前やお布施をおつとめが終わった後に差し出されることが時々あるのですが、ご仏前やお布施は僧侶に対する施しではなく、阿弥陀如来さまに対するものなので、おつとめが始まる前にお寺に入ったらすぐに用意してあるお盆にお供えものを置いておきます。

当山ではお盆に寄せられたお供えものは「お供えさせていただきます」と言ってお供えします。阿弥陀さまへのお供えものだからです。

以上、お話の中で気づいたことと最近の仏事で気づいていたことを述べました。参考にしていただければ幸いです。

# 法語の世界

原文

御文はこれ凡夫往生の鏡なり。御文のうへに法門あるべきやうに思ふ人あり。大きな誤りなりと云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百七十七)

現代語訳

蓮如上人の御文章は、凡夫が浄土に往生する道を明らかに映し出す鏡である。この御文章の他に浄土真宗のみ教えがあるように思う人がいるが、それは大きな誤りである。

## 二〇一五年春季彼岸会法要のお知らせ

日時 三月二十一日 午前九時三十分  
会所 金光寺本堂  
勤行 正信念仏偈(草譜)六首引き  
講師 未定  
その他 彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の例会です。会員の皆さまのご参詣をお願いします。

一般の門信徒の皆さまのご参詣もお待ちしております。法要終了後、仏教婦人会の総会を行います。

## 2月の二十四節気と七十二候

(は二十四節気・は七十二候)  
立春(りっしゅん・2月4日)  
梅の花が咲き始め、徐々に暖かくなり、春の兆しがところどころで見られます。  
東風凍を解く(とうふうこおりをとく・初候・2月4日~8日頃)  
暖かい春の風が、冬の間張りつめていた氷を解かし始める頃。  
黄鶯睨睨(うぐいすなく・次候・2月9日~13日頃)  
ウグイスが鳴き声で春の到来を告げる頃。  
魚氷に上る(うおこおりにあがる・末候・2月14日~17日頃)  
氷下で泳いでいた魚が氷の上に跳ね上る頃。  
雨水(うすい・2月19日)  
降る雪が雨へと変わり、雪解けが始まる頃。  
土脈潤い起こる(どみやくうるおいおこる・初候・2月18日~22日頃)  
冷たい雪が暖かい春の雨に代わり、大地に潤いをあたえる頃。  
霧始めて靄く(かすみはじめてたなびく・次候・2月23日~27日頃)  
霧やもやで、遠くの山や景色がほのかに現れては消え、山野の情景に趣が加わる頃。  
草木萌え動く(そうもくもえうごく・末候・2月27日~3月4日頃)  
足もとや庭木の先にほんのりと薄緑に色づく芽が見られる頃。